

外務大臣賞

「私は『脅威の国』から来た娘？」 リメイギョク (李明玉)

Ms. Li Ming Yu
(中国・国際交流員)

国際交流員として2年目を迎えました。日本の事がとても好きで、町にもすっかり溶け込んでいます。これからも日本と中国の橋渡し役としてこの仕事にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。



「中国なんか行きたくありません。殴られてもしたら、どうしてくれるの？ああ、怖い、怖い。」

7年前、留学生として来日した時、知り合いの日本人に「どうぞ、中国に遊びに来て下さい」と話しかけたところ、こう言い返されました。その年の7月、中国で開かれたサッカーの試合で、中国人の観客が日本チームにゴミを投げつける様子が、繰り返し報道されていたころでした。

もう一つ、同じような例をご紹介します。5年間の中国での仕事を終え、最近帰国した日本人の友人は、周囲からこう言われたそうです。「あんな恐ろしい国で、そんな長い間、暮らしていたの?」。昨年9月に起きた尖閣諸島沖での漁船衝突事件が引き合いに出され、中国のやり方が、いかに理不尽だったかを聞かされたそうです。

内閣府が昨年12月に調査したところ、77.8%の日本人が「中国に親しみを感じない」と答えたそうです。残念ながら、中国に対する日本人のイメージは良くないようです。

私はいま、青森県の板柳町というところで、国際交流員として働いております。板柳町をご存じですか? 「りんごの産地」として地域おこしをする町で、さらに、人気力士の高見盛閔のふるさと、としてご記憶いただければと思います。

板柳町で暮らし始めて、もう1年が過ぎました。ただ、内閣府の調査とは違って、私が中国人であることで不自由に思ったことは一度もありません。そればかりか、どこに行っても歓迎され、心地よさを感じるほどです。

なぜなのでしょう。

その理由を知りたくて、私は周囲の20人にアンケートに答えていただき、自分なりに分析してみました。

「中国」という国に対する印象は、多くの方が「高圧的」と回答しました。急速な経済発展に伴って、世界的に存在感を強めている中国。日本人には「図体が大きくなるにつれ、みるみる態度が悪くなる隣の人」のように映っているのかもしれない。

逆に、中国の「人」に対しては「気さくだ」「親切な人が多い」と、おおむね好意的でした。ほとんどの方が、旅行や事業などを通して、中国人と交流したことがある、とも付け加えていました。

一つ大事なことを言い忘れていました。

板柳町は、北京市昌平区という町と20年近く姉妹関係が続けていまして、人の行き来がさかんなのです。これが決定的な要素かもしれませんね。つまり、板柳の人は中国人との接触の機会が多くあり、だからこそ、中国の「国」とは違うイメージを「人」に対して抱いているのかもしれない。

中国は、日本とつながりの深い国です。アンケートに答えて下さった方の多くが、中国の歴史や自然、文化をたたえてくれました。

一方で、国と国の間は、歴史や領土の問題でたびたびもめ、そのつど、問題を先送りしたり、棚上げしています。

しかし、私はもうコリゴリです。これからも、中国人は日本の過去の行為をうらみ続け、日本人は中国を「脅威」として警戒し続けなければならないのでしょうか？新しい発想で、歴史や領土の問題をすっきり整理する時期に来ていると思います。私たちの世代は「わだかまりのない日中関係」を目指して、個人の信頼関係を国レベルに引き上げられるよう努力しなければなりません。

このスピーチの原稿を考えていた3月11日、日本で未曾有の大震災が起き、多くの尊い命が奪われました。私は、津波に飲み込まれる町の様子をテレビで見て、涙が止まりませんでした。謹んで、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。

日本は、復旧・復興に向け、気の遠くなるような試練に直面しています。原発事故の処理も困難を極めています。日本に住む中国人として、私は日本や日本のみなさんを最大限、応援し続けるつもりです。中国のインターネット上でも、日本が一日も早く元気になることを祈る書き込みが溢れています。

四川大地震の時、日本からの救助隊に、多くの中国人が感銘を受けました。今度は我々の番です。私はもはや「脅威の国から来た娘」ではありません。日本のことを本当に大切に思う「ともだちの国」の使者なのです。

日本のみなさん、ともに頑張りましょう！